

◆入試でキーワードをチェック!◆

「権威」とは「権力」よりも広い概念として用いられる。権威は「権力」を包含する概念である。権威は組合など比べて、何一つ特殊な組織ではないという主張と異なり、この「組合」の集団や社会は、その内に統一的な決定作成（意思決定）の機構を有する。権威は、成員の服従を獲得するために契約や制裁にのっとり、また専門性を発揮するという「権威」を樹立することも、非服従者に対する何らかの制裁措置をとる力すなわち「権力」をもつ。この意味では、他の集団（社会）との差は、程度の問題でしかないというのである。イギリスの政治学者E・バーカーやH・J・ラスキなどによって積極的に展開された主張は、政治的多元主義（political pluralism）多元的國家論ともいわれている）とよばれているが、それは、國家論と等視されていた政治学が、一般的な社会理論へ接続されたよつという努力であると同時に、¹²⁶「権威」の論議の下で¹²⁵絶対化されるようになった國家權力を抑制し、教

【出典】 高島通敏 『政治学への道案内』

【出題】 大阪市立大学

読解のポイント

主張（政治学の対象は国家にかぎられない）
 ↓
 すべての集団や社会は権威と権力をもつ
 ↓
 政治的多元主義
 ↓
 ・一般的な社会理論へ接続
 ・國家權力を抑制し、社会集団の自由を確保

要約

すべての集団や社会は権威と権力をもつので政治学の対象は国家にかぎられない、とする政治的多元主義は、政治学を一般的な社会理論へ接続させ、國家權力を抑制して社会集団の自由を確保しようとする思想の結実でもあった。

★★★★
 10
権威
 人々がそれに価値を認めて、自発的に同意し服従することを促す力。

★★★★
 11
権力
 人々を強制し服従させる時に働き、人々の納得や承認を必要としない力。

解説

権威あるものは人々から崇拜、尊敬される対象となる。また、「物理学の権威」などのように、知識や技術を誰よりも極めている人のことも、権威（オーソリティ）と言う。

権力は、支配する者と支配される者とが分かれ、命令―服従の関係が成立した社会で発生するものである。さらに、権力の最も組織化されたものが**國家權力**である。〈権力〉に正統性を与えるのは〈権威〉で、近代國家においては、憲法という〈権威〉が國家權力の正統性を裏づけている。

コラム

幕末において、〈権力〉をもっていたのは幕府、一方で〈権威〉があったのは朝廷（天皇）であり、両者は分裂していたが、明治維新によって後者（天皇）が権力と権威の両方をもつことになった。西洋においては、世俗的権力をもつ國家（國王）と宗教的な権威のある教会が対立し、両者が対立する中で近代市民階級が登場した。